

ジについてはこのV-プライマーが有効であると考え
る。そして脱落例を鑑みると、①ピンホールなどの付与、
②接着面積をできる限り大きくする。③動揺歯には応用
しない。④銅を含まない合金には使用しない。⑤口腔内

の金属には直接応用しないなどの対策を講じることに
よ、多数の長所を持っている接着ブリッジの脱落率を少
なくすることができる。と考える。

9. 北海道地区の口腔インプラントに関するアンケート調査

○越智 守生, 広瀬由紀人, 坂口 邦彦,
白井 伸一, 松本 弘幸, 加々見寛行,
八島 明弘, 鳴野 隆博, 神成 克映,
國安 宏哉, 山崎慎一郎, 木村 和代,
松原 秀樹, 栗田 宅哉, 富田 達洋*,
永山 正人*, 三嶋 顕*

(北海道医療大学歯学部歯科補綴第二講座, *北日本口腔インプラント研究会)

【目的】現在, 口腔インプラントの臨床は確立され, 種々の教科書や学術雑誌などから多くの情報を得ることが可能である。しかし, 日常臨床におけるインプラント治療の実態については, いまだに報告が少ないように思われる。そこで今回, 北海道地区におけるインプラント臨床の実態を調査する目的でインプラント臨床の環境, 材料, 方法などに関してアンケート調査を実施した。インプラント臨床の実態の把握は, これからの基礎的ならびに臨床的研究に対する指針になると思われる。

【方法】今回のアンケートは, 北海道地区でインプラント臨床を日常の診療で行っている歯科医師が所属すると思われる北日本口腔インプラント研究会の全会員の134名を調査対象とした。方法は一連のインプラント臨床に関する質問用紙を郵送し, 回答記入後に返送してもらう郵送調査法を実施した。

【結果と考察】アンケート調査の有効回答は合計44通,

回答率は33%であった。アンケートの結果から「日常の診療で使用するインプラントの種類」で最も多い回答は1種類の28%, 次が3種類の21%であった。「使用頻度が多いインプラント」で最も多い回答はAQBの24%, 2番目がITIの18%, 3番目がカルシテックとパラゴンの16%であった。上部構造の使用材料は, 前装材料にポーセレンを使用している回答が硬質レジンよりも多かった。部位別においては, 前歯部でポーセレンの使用が多く, 小臼歯部ではポーセレンの使用がメタル単独(前装なし)を使用材料とする回答よりも多かったが, 大臼歯部では反対にメタル単独の回答が多かった。また, 固定方法はセメント合着が最も多く, 次に術者可撤式(スクリュー固定), 仮着の順であった。この結果より, 現在のインプラント臨床は機能の回復と同時に審美性の回復がより重要視されるようになってきていると思われる。

10. スポーツ選手に対するオーラルヘルスプロモーション

○石島 勉, 平井 敏博, 久保田 光,
池田 和博, 越野 寿, 横山 雄一,
飯田 一彦, 高田 英俊, 松実 珠千,
片岡 洋, 中野 健治

(北海道医療大学・歯・歯科補綴学第一講座)

【目的】スポーツ選手がベストパフォーマンスを發揮するためには, 全身あるいは身体の各部に疾病や障害が無いことはもちろんのこと, 日常生活ならびにスポーツ活動を支障なく行える身体的ならびに精神的な健康の確保

が不可欠である。この観点から, 近年, スポーツ選手における全身の健康管理の重要性について, 選手ならびに関係者の意識が高まりつつある。しかし, 顎口腔系に関しては, 多くの選手がその健康管理の重要性を認識して